



よこのさんのうばら  
横野山王原遺跡 (秦野市No. 97)

**所在地** 秦野市横野 216-1 外  
**期間** 平成 31 (2019) 年 4 月 1 日～  
 令和 2 (2020) 年 3 月 31 日  
**調査面積** 19,296㎡  
**担当者** 畠中俊明・小島清一・大塚健一  
 三瓶裕司・吉澤 健・井辺一徳  
 諏訪直子・後藤信義・塚田順正  
 澁谷正信・馬淵和雄

**調査概要**

平成 31 年度は、7 区②③、8 区③、6 区③ - 2 にて旧石器時代～近世面、7 区①において旧石器時代～奈良・平安時代、8 区②にて旧石器時代～縄文時代第 1 面、7 区④にて近世面まで、8 区①にて弥生～縄文時代第 1 面の調査を実施しました。今年度は、時代の異なる多地点の調査を進めました。

(1) **近世** 近世の調査では、これまでの調査同様、表土直下にて耕作に伴う段切りや、宝永



図 1 調査地の位置 (1/25000)

火山灰 (1707 年) から耕地を復興した天地返し痕とよばれる土坑や溝が確認されました (図 2・写真 1)。

(2) **奈良・平安時代～中世** 奈良・平安時代から中世では、近世同様、耕作地に関連した土坑や溝・道状遺構が発見されました。7 区②では、円形に巡る円形周溝状遺構が南西の調査区外へ延びており、拡張して調査しました。周溝状遺構は、深さ約 50cm、幅 90cm ほどの溝が、径 5 × 7.5 m の楕円形に巡ります (写真 2)。同様な周溝状遺構は、2 区や 6 区の調査でも発見されましたが、明確な用途は不明です。

(3) **弥生時代** 弥生時代の調査では、7 区にて陥し穴状の土坑が一行に並んで発見されました (写真 3)。土坑の平面形は、概ね長方形を呈し、深いものでは確認面から 1.5 m 以上も掘られていました。

(4) **縄文時代** 縄文時代の調査では、縄文時



図 2 7 区②③ 近世面全景

代後期、前期末～中期初頭と早期を中心に住居跡や焼けた礫が複数点集まった集石、陥し穴状の土坑等が発見されました。縄文時代後期と思われる陥し穴では、平面形は円形を呈し、底面には複数の逆茂木(さかもぎ)穴が掘り込まれていました(写真4)。

7区①で発見された縄文時代早期の住居跡では、住居の範囲内から大量の黒曜石製の碎片に伴って石鏃や石鏃の未製品が発見されました。ここで石鏃を製作していた可能性が高いと思われます。また、住居の床下からは、炉穴とよば

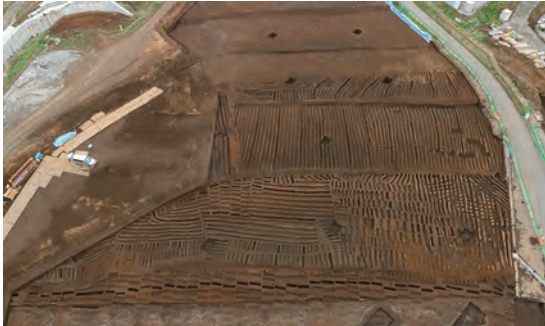


写真1 7区② 近世面全景(南東から)



写真2 7区② 円形周溝状遺構(北西から)



写真3 7区① 弥生時代の陥し穴列(南西から)

れる施設が見つっていますが、おそらく上部は住居によって壊されていました。炉穴は、半地下式のカマドのような施設で、ここでは手前の焚き口から、三方向に火を受けた焼土跡が確認されました(写真5赤丸部分)。

### まとめ

今年度は、これまでで最も広範囲を調査し、近世、中世～奈良・平安時代、弥生時代、縄文時代と多時期にわたる遺構が発見されました。近世の調査では、遺跡全体が耕作地であり、天地返し痕は、調査区外へも広がっている様子が捉えられました。また、縄文時代の調査では、早期後半以降～前期初頭の頃まで、遺構・遺物が皆無であり、7区の調査では、その頃に谷状の地形が埋まってしまった様子が確認されました。(畠中俊明)



写真4 7区① 縄文時代後期の陥し穴の底部



写真5 7区① 縄文時代の住居と炉穴(南西から)